

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02594

研究課題名（和文）コンピテンシー・マップに基づく課題選択型道徳授業方法の開発

研究課題名（英文）Development of the Task-Selective Moral Lesson Method Based on Competency Maps

研究代表者

吉田 誠（YOSHIDA, Makoto）

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号：60449957

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は子どもの実態に応じて道徳科の授業を柔軟かつ探究的に展開できる方法の開発を目的としている。本研究で明らかにした道徳的資質・能力の発達モデルを基に道徳科の教科書教材について教材分析を行い、段階の違いに基づく子どもの予想される複数の反応とそれに対応するコンピテンシーの達成度と課題を教材分析図上に明示するコンピテンシー・マップとそれを用いた課題選択型授業方法を開発した。その上で最終的に児童生徒が教材から複数の課題を設定して自ら回答する課題探究型授業への発展可能性を示すとともに、その前段階として教師が作成した8つの学習課題に児童生徒が順番に取り組む課題循環型授業の提案を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果を用いて、教師が「道徳科ねらいの8類型」の8つの視点から設定した複数の発問に子どもたちがグループで順番に答えながら交流することで道徳的問題に対する思考を深めるとともに8つの視点を習得することを目指す課題循環型授業の方法を一定期間実践することを通して、子どもたちが「道徳科ねらいの8類型」の理想主義と現実主義を統合した視点を習得し活用できるようになることが期待される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a method for moral education classes in a flexible and exploratory manner according to the actual conditions of children. Based on the developmental model of moral competencies clarified in this study, we analyzed textbook materials for moral education and developed a competency map that clearly shows children's expected reactions based on the different stages and the corresponding level of achievement of competencies and issues on the analysis chart of the materials. We developed a task-selection type learning method based on this map. We showed a possibility to attend an task exploration moral class as the final stage of the project, in which students are required to set multiple tasks from the textbook and answer them on their own. Also, we proposed a task cycle class in which students work in turn on eight learning tasks created by the teacher as a preliminary stage of the task exploration class.

研究分野：道徳教育

キーワード：道徳的資質・能力 自我発達段階 コンピテンシー 発達モデル

1. 研究開始当初の背景

『特別の教科道徳』の指導方法・評価等について(報告)(2016.7.22)では中教審教育課程企画特別部会の「論点整理」(2015.8)を踏まえて資質・能力の三つの柱と道徳科の関係について整理し、資質・能力を育てる学習を通じて「内面的資質や能力としての道徳性を主体的に養い、日々の生活や将来における道徳的行動や習慣に結び付ける」という特別の教科としての特性を踏まえた質の高い多様な指導を行うことが求められていることから、「今後、道徳科の指導については、その実質化を図るとともに質的転換が求められる」と述べられている。これに対して「特別の教科道徳」に関する一部改正学習指導要領では、荒木寿友が指摘しているように、本来「道徳性の諸様相と結びつけて検討されなければならないはず」の「資質・能力は道徳科の学習活動と結びつけられて整理された」ために、「学習指導要領本体の考え方とズレが生じてしまっている」(荒木寿友、「コンピテンシーの育成と人格の形成 道徳のコンピテンシーから導かれる 道徳性の再定義」)、グループ・ディダクティカ編『深い学びを紡ぎだす』、勁草書房、2019年、82頁)。荒木は資質・能力の三つの柱に対応する道徳のコンピテンシーとして「道徳的知識と理解」、「道徳的思考スキル」、「道徳的感情と態度」を挙げることで資質・能力の枠組みと道徳のコンピテンシーとの関係を示したが、彼が自ら指摘するように「人間の発達的な視点(あるいはそれぞれの要素が深まっていく視点)が欠けている」(前掲、92-93頁)。しかも、資質・能力の枠組みと道徳のコンピテンシーとの関係だけでは、個々の内容項目に示された道徳的価値の実現に必要なコンピテンシーが不明確なため、指導や評価に活用することが困難である。

この問題に対して筆者はこれまでに親切・思いやり、感謝、礼儀、規則の尊重など具体的行動につながる内容項目を中心にコンピテンシー・モデルを構築する道徳授業の実践を行い、結果の分析と検証を行うことでコンピテンシー・モデル構築の道徳教育方法を確立してきた(吉田誠・逸見裕輔、「資質・能力を意識したカリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の評価 コンピテンシー・モデルを用いた複数授業構成とエピソード評価」、『倫理道徳教育研究』創刊号、2017年12月、22-36頁)。そして、その過程で、コンピテンシー・モデルの段階がクックグロイターの自我発達段階と関連していることを明らかにした(吉田誠・逸見裕輔、「学級目標の達成を目指した学級活動と道徳科の単元構成 コンピテンシーの「垂直的成長」の観点に基づくエピソード評価」、『山形大学教職・教育実践研究』第14号、2019年3月、1-10頁)。さらに、ホワイトボード・ミーティング®やエピソード記述の方法を取り入れることで自我や道徳性に関する発達段階に基づく評価とエピソード評価を統合する道徳性成長の評価方法を提案した(吉田誠・逸見裕輔、「コンピテンシー・モデルとホワイトボード・ミーティング®によるエピソード評価」、『道徳と教育』第338号、2020年、121-131頁)。これまでの研究によって、自我発達段階と指導評価用コンピテンシー・モデルに基づいて子どもの実態を把握した上で、道徳科の単元構成の計画を立て、各授業における子どもの反応や日常生活における子どもの姿から道徳性の成長の方向性と課題を見極めながらコンピテンシー・モデルと授業計画を柔軟に修正するカリキュラム・マネジメントの方法をある程度確立することができた。

しかし、現状では指導評価用コンピテンシー・モデルを基に教材分析を行い、授業実践を行いながらコンピテンシー・モデルと授業計画を柔軟に修正する部分については研究者と授業者個人の資質・能力に負う部分が大きく、多くの教員の実践に供することが困難なことも明らかになった。この課題を克服するには、教師が道徳科の授業を学級の実態に応じて柔軟に行いながら指導と評価の一体化にも活用できるコンピテンシー・モデルの観点に基づく教材分析図の開発が必要である。そのため、本研究の中心的な問いは、学習指導要領に示された内容項目に示された道徳的価値を実現するために必要なコンピテンシーを道徳性の諸様相と結びつけながら人間の発達的な視点から整理したコンピテンシー・モデルと教材のつながりを明示することで学校現場での柔軟な活用を促進するコンピテンシー・マップとしての教材分析図および子どもの主体的な探求を促進する授業の形態はいかなるものかである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、前述の問いに答えるために、道徳科の教科書教材について、自我発達段階が異なる複数の観点から教材分析を行い、段階の違いに基づく子どもの予想される複数の反応とそれに対応するコンピテンシーの達成度と課題を教材分析図上に明示するコンピテンシー・マップとそれを用いた課題選択型授業方法を検討し、子どもの発話分析と授業者へのインタビューを基にその有効性を確認することである。コンピテンシー・マップを用いることで、教師が子どもの実態から探究課題を構想し、授業中に探究課題を選択して学習することで子どもが主体的に教材の道徳的内容を探究する授業が行えるようにすること、および、授業での反応を基に子どもの学習の成果と課題を明らかにし、道徳科の指導と評価の一体化および改善につなげられるようにすることを最終的な目的とする。

3. 研究の方法

まず、教科書教材についてコンピテンシー・モデルの各段階の観点から多面的多角的に教材分析

を行い、より高い段階の観点につながる複数の探究課題と想定される反応をわかりやすく示したコンピテンシー・マップを作成する。その上で実際に授業を実施して子どもの学習活動と反応を確認しながらコンピテンシー・マップの修正を行う。その際、ホワイトボードを用いたファシリテーション技法であるホワイトボード・ミーティング®を授業および授業者へのインタビューに用いる。授業での子どもの反応と授業者のインタビューについては修正型グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA)を用いて分析を行う。分析結果に基づいてコンピテンシー・マップを改善するとともにコンピテンシー・マップを用いた課題選択型道徳授業の進め方と評価方法を確立する。

4. 研究成果

令和3年度は、教科書教材についてコンピテンシー・モデルの各段階の観点から多面的多角的に教材分析を行い、より高い段階の観点につながる複数の探究課題と想定される反応をわかりやすく示したコンピテンシー・マップを作成した上で実際に授業を実施して子どもの学習活動と反応を確認しながらコンピテンシー・マップの修正を行った。道徳科の授業での子どもたちのワークシート記述に見られる視点や思考の発達の様子を自我発達段階の視点に基づいて修正型グラウンデッドセオリーを用いて分析し、道徳的資質・能力の発達モデルの一部を明らかにした(吉田誠「自我発達段階の視点に基づく道徳的資質・能力の発達モデル構築の試み」『B.主として人との関わりに関すること』の学習を中心として』、『山形大学教職・教育実践研究』17、2022年3月、64-75頁)。また、教科書教材について「道徳科ねらいの8類型」とコンピテンシー・モデルの各段階の観点から教材分析を行い、複数の探究課題と想定される反応をまとめたコンピテンシー・マップを作成した。

令和4年度も、前年度に引き続き、教科書教材についてコンピテンシー・モデルの各段階の観点から多面的多角的に教材分析を行い、より高い段階の観点につながる複数の探究課題と想定される反応をわかりやすく示したコンピテンシー・マップを作成した上で実際に授業を実施して子どもの学習活動と反応を確認しながらコンピテンシー・マップの修正を行った。道徳科の授業での子どもたちのワークシート記述に見られる視点や思考の発達の様子を自我発達段階の視点に基づいて修正型グラウンデッドセオリーを用いて分析し、道徳的資質・能力の発達モデルをより詳細に示した(吉田誠「自我発達段階の視点に基づく道徳的資質・能力の発達モデル構築の試み2 自意識的段階と良心的段階の水平的成長と垂直的発達を中心として」、『山形大学教職・教育実践研究』18、2023年3月、43-54頁)。その他、自我発達段階の視点を基に道徳教育の目的と方法の正当性を捉える複数の基本原理を整理する試みを行った(吉田誠「相対主義を超えて含む道徳教育学構築のための基礎的研究 - 道徳教育の目的と方法の正当性を捉える基本原理の発達論的視点に基づく考察 -」、『倫理道徳教育研究』第6号、2023年3月、46-60頁)。

令和5年度は、昨年度までに明らかにした道徳的資質・能力の発達モデルを基に道徳科の教科書教材について、自我発達段階が異なる複数の観点から教材分析を行い、段階の違いに基づく子どもの予想される複数の反応とそれに対応するコンピテンシーの達成度と課題を教材分析図上に明示するコンピテンシー・マップとそれを用いた課題選択型授業方法を開発した。その上で、課題選択型授業を通して児童生徒が「ねらいの8類型」の理想主義と現実主義を統合した視点を習得することで最終的に児童生徒自身が教材から複数の課題を設定して自ら回答する課題探究型授業へと発展させる可能性を示すとともに、課題選択型授業の前段階として、教材分析と「道徳科ねらいの8類型」の視点に基づいて教師が作成した8つの学習課題に児童生徒が順番に取り組む課題循環型授業の提案を行った(吉田誠「内容理解と資質・能力発達の両立」、『田沼茂紀編『道徳は本当に教えられるのか』東洋館出版社、2023年)。その後、中学生を対象に課題循環型道徳授業の実践を行い、生徒のワークシート記述について自我発達段階の視点に基づいて分析し、評価を行った(吉田誠・高橋麻衣子「ねらいの8類型による課題循環型授業の実践と自我発達段階に基づく評価」、『山形大学教職・教育実践研究』第19号、2024年3月、9-20頁)。

今後、本研究の成果を用いて、教師が「道徳科ねらいの8類型」の8つの視点から設定した複数の発問に子どもたちがグループで順番に答えながら交流することで道徳的問題に対する思考を深めるとともに8つの視点を習得することを目指す課題循環型授業の方法を一定期間実践することを通して、子どもたちが「道徳科ねらいの8類型」の理想主義と現実主義を統合した視点を習得し活用できるようになることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田誠・高橋麻衣子	4. 巻 19
2. 論文標題 道徳科ねらいの8類型による課題循環型授業の実践と自我発達段階に基づく評価 「宝塚方面行き 西宮北口駅」(中2)を用いた協働学習	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 山形大学 教職・教育実践研究	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 誠	4. 巻 18
2. 論文標題 自我発達段階の視点に基づく道徳的資質・能力の発達モデル構築の試み2	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山形大学 教職・教育実践研究	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 誠	4. 巻 6
2. 論文標題 相対主義を超えて含む道徳教育学構築のための基礎的研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 倫理道徳教育研究	6. 最初と最後の頁 46-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 誠	4. 巻 17
2. 論文標題 自我発達段階の視点に基づく道徳的資質・能力の発達モデル構築の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山形大学 教職・教育実践研究	6. 最初と最後の頁 64-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉田誠・高橋麻衣子
2. 発表標題 ねらいの8類型による課題循環型授業の実践 と自我発達段階に基づく評価 「宝塚方面行き 西宮北口駅」（中2）を用いた協働学習
3. 学会等名 日本道德教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 誠
2. 発表標題 道德授業ワークシート記述の自我発達段階の視点に基づくM - G T A分析を用いた道德的資質・能力の成長モデル構築の試み
3. 学会等名 日本道德教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 田沼茂紀編・走井洋一・荒木寿友・高宮正貴・吉田誠・豊田光世・中野啓明・藤澤 文・柳沼良太・江島 顕一・関根明伸・苜野一徳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 278
3. 書名 道德は本当に教えられるのかー未来から考える道德教育への12の提言ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大人も学べる道德教材1「手品師」を探究してみよう https://youtu.be/wHZWF4xVVs

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 麻衣子 (TAKAHASHI Maiko)	山形大学・附属中学校・教諭 (11501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関